

「分かる」が面白い！ 学びの楽しさ再発見

町内小・中学校の各教室で、タブレットや電子黒板を使った新たな教育が行われています。ICT教育が導入された今、授業風景はどのように変わったのでしょうか。視察研修会が行われた醸芳小学校の授業の様子を紹介します。ICT教育の良さは何か、子どもたちや先生に聞きました。

新たな学びの形

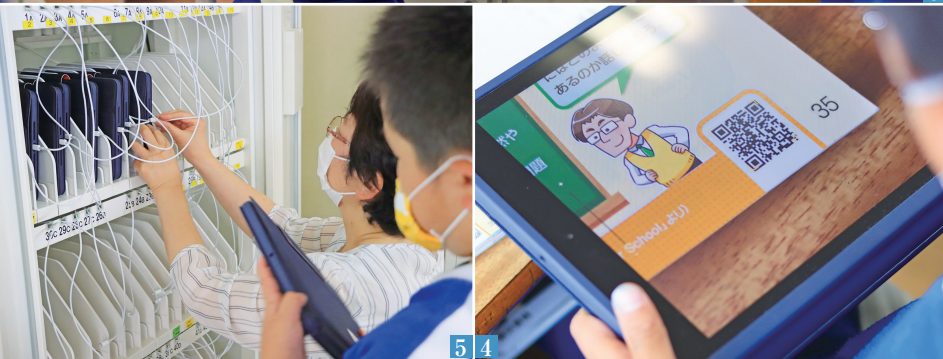
6月3日、ICTを活用した授業の視察研修会が行われた醸芳小学校では、子どもたちが一人一台タブレットを使い、授業を受けていました。

この日、算数の授業で、分数について学んでいた6年2組。「それでは、みんなの解答を見てみましょう」という教員の声掛けに合わせて、児童一人一人のタブレットにクラス全員の解答が映し出されました。答えを導き出すまでの詳しい計算式が画面にずらりと並びます。タブレットの機能を活用して、自分のノートに書いたものをデータ化し、瞬時にクラス全員へ転送。教員に指名された児童が黒板に答案を書いて発表するよりも、限られた時間でより多くの人の意見を聞くことができます。

社会の授業で、自然災害に備える家づくりについて学んでいた5年1組では、教科書に載っているQRコードをタブレットで読み込み、リンク先のウェブサイトにて関連動画を視聴。映



1_ クラス全員の解答をデータで集約
2_ タブレットに書き込みながら問題の解き方を教え合う
3_ タブレットで児童の進捗状況を確認し、一人一人に合った指導を行う
4_ インターネットにつなぎ、学習の幅を広げる
5_ 授業後や下校時に忘れずに充電



使い方方を習得しようと、基本的な操作方法を学んでいました。カメラ機能を使って、友達の顔写真を撮り、画像データを教員に提出する練習です。席を立って、友達と互いに写真を撮り合い、「見て見て、上手く撮れた」と喜びながらタブレットに触れていました。

創造性を育み、未来を創る

現代を生きる子どもたちにとって、電子黒板やタブレットなどのICT機器は、鉛筆やノートと並ぶマストアイテムです。職場や家庭など、社会のあらゆる場所でICTの活用が日常となる今、社会を生き抜く力を育む場所である学校でも、ICT機器を活用し、子どもたちの可能性を広げていかなければなりません。

町でも、ICTを取り入れた授業を通して、「桑折町の15歳のめざす姿（高い志を持って、自分の将来を切り拓いていこうとしている15歳）」の一層の実現を目指し、将来を見据えた新たな学びを推進していきます。



左_電子黒板でウェブサイトを開覧 右_計算の考え方をタブレットで共有

Interview



醸芳中学校3年
横山 穂乃花さん

紙のノートとICT機器での学習を両立させたい

4月から、さまざまな教科でタブレットを取り入れた授業が始まりました。特に、理科の授業でタブレットを使うことが多く、実験の様子を動画に撮って記録したり、図形機能を活用して化学反応について学んだりしています。

班分け学習でも、今まではホワイトボードを使ってグループ内の意見を発表していましたが、タブレットのおかげで、図形を挿入したり色付けしたりしながら、より分

かりやすく意見をまとめて発表できるようになりました。

タブレットを使うことで便利になる一方、国語や英語の授業で、漢字や英単語を打つと予測変換で正しい文字が出てきてしまうのが気になります。文字はノートに何度も書かないと覚えられない面もあるので、これまでのノートに書き込む学習とタブレットを活用した学習をうまく両立させていきたいです。

Interview



醸芳中学校2年担任
飛澤 健敬さん

タブレットも便利な文房具のひとつ

生徒が既にICT機器に慣れていることもあり、スムーズにタブレットを授業に取り入れることができました。担当の数学では、班ごとに与えたタブレットに問題を送り、グループで知恵を出し合って課題に挑戦するといった授業も行ってます。生徒からは「画面に直接答えを書き込めて良い」「授業に参加しやすい」などの声があります。教員としても、一人一人の学習の進捗状況を常に把握できるため、より生徒に寄

り添って指導できるようになりました。

6月からは、タブレットを家に持ち帰り、徐々に家庭学習に生かすことも検討しています。学校での学習が全て1台の端末に集約されているので、家庭での振り返り学習に大いに役立てられるのではないかと期待しています。今やタブレットも便利な文房具のひとつです。さらに活用の幅を広げて、社会に出た時に役立つ術を教えていけたらと思っています。